

伊方原発に巨大地震と大津波の脅威

つじよしのぶ

元東京大学地震研究所准教授 都司嘉宣講演会

2012年7月29日(日) 午後1:30開場
午後2:00~4:00

【会場】 松山市男女共同参画推進センター コムズ 5階大会議室

松山市三番町 6-4-20 電話 089-943-5776



講演 「慶長豊後伊予地震(1596年)の知見と伊方原発」

資料代500円

【講師紹介】 都司嘉宣 つじよしのぶ

国会の事故調査委員会は、津波以前に地震によって原子炉の破壊が始まった可能性が否定できないことを報告しています。伊方の沖を走る中央構造線活断層帯は原発に近く、強震動がごく短時間に原発を襲うという点で最大の脅威です。同時に、津波についても新たな指摘があります。都司嘉宣さんは、中央構造線活断層帯と周辺の断層帯で発生した地震が瀬戸内に大きな津波をもたらしたことを指摘しています。1596年には佐賀関で10.6mの津波が発生しており、このよう

な地震が起これば、伊方においても10m~15mの津波を考えなければならぬとしています。

都司 嘉宣(つじよしのぶ、1947年生)地震学者。元東京大学地震研究所地震火山災害部門准教授。研究分野は津波、歴史地震学、津波検知、高潮。東京大学工学部卒。同大学院理学系研究科修士課程修了。2008年、海洋情報業務に貢献したことで海上保安庁長官から感謝状。2010年2月チリ地震による津波をNHKで解説。2011年3月11日東北地方太平洋沖地震について、NHKとTBSで津波に関する解説。産経新聞に「温故知震」を連載中。2012年東京大学を定年退職。現役時代から現在まで、全国各地に足を運ぶ行動的な研究者。



伊方原発をとめる会

790-0003 愛媛県松山市三番町5-2-3ハヤシビル3F
電話 089-948-9990 FAX 089-948-9991
HP <http://www.ikata-tomeru.jp>